

## おわりに

山崎 茂 男

昭和四十四年の四月に、『ふっさっ子』第一集を出版した。珠算学校月報からぬき出した「子ども意見」と、昔の福生の悪童たちの思い出話の「わんぱく時代」とを主にした内容の小誌であった。

編集子にとって、なにもかもはじめてのことで、うまくまとめられなかったのに、皆さまから大変なおほめにあずかった。その節、有志皆さまで、あくまでも私のしりあいの方々を主体にした盛大な出版祝賀会を催してくださった。私にとって、あんな感激の思い出は一生に一度だけのことである。それから、ますます福生に強い愛郷の念を抱いたことであつた。その節の関係者の皆さまに、あらためて心からお礼を申しあげたい。

幸い、その祝賀会場でも公言させていただいた、第二集をここに出版することができた。

この第二集ではそれぞれの立場の指導層である人々が、私ごとき者のよびかけにもかかわらず、全面的なご協力をくださった。

執筆者の皆さまのほかに、表紙写真の森田崇且氏。年表作成には村上直先生（駒沢短大教授）。

そして原稿の整理、編集、校正等に、川鍋幸三郎氏はじめ多大のお力添えを賜った皆さん。その  
まとめを武蔵書房の桜沢一昭・米光忠両氏にすべてお願いした。

また、本文中の写真については、設楽美知、森田正、篠崎久治氏をはじめ、多くの方に提供し  
ていただいた。

本当にお陰さまでこのような堂々たる記録誌が、福生に誕生するはこびとなった。  
皆さまに心より厚くお礼申しあげる次第である。ありがとうございました。

印 略  
検 省

ふっさっ子

第2集

定価 八五〇円

昭和四十六年八月一日 第一刷発行

編者 山崎 茂 男

東京都福生市志茂一九〇

発行所 (有)武蔵書房

東京都西多摩郡羽村町五ノ神二〇  
電話 〇四二五・五一・五五四二  
振替 東京 八三二〇一

印刷 (株)昭和印刷  
製本 (有)山崎製本



ふっさっ子 第一集

山崎茂男編

B40版・定価三八〇円

△四四・五・二九 朝日新聞より▽

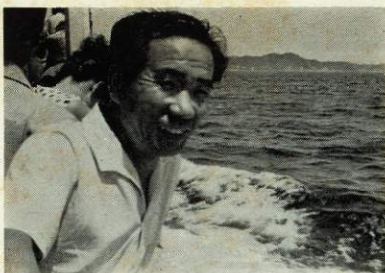
「三億円を手にしたら銀行へもって行って一円玉にかえさせる」(五年・男子)

——こんな子どもたちの考えをふんだんに集めた一冊の本が刊行された。名付けて『ふっさっ子』。編者の経営するそろばん教室の合い間に集めた子どもたちの声である。子どもたちの家庭や政治への痛烈な意見は、時におとも顔まけの鋭い観察力をのぞかせている。

△四四・四・三〇 読売新聞より▽

『ふっさっ子』——昭和二十二年から

山崎さんのところへ通ってきた子どもたち約一万人の中から選んだ小さな声の作品集である。「福生珠算学校月報」もすでに二百三十八号目。その中に収録された「子どもの意見」は原稿用紙とし込みの第一号から活版刷りの現在まで、おとも子どもとの対話の橋渡しとなっている。



鳴門海峡の旅を楽しむ編者

山崎茂男

大正十五年八月、福生市に生まれる。  
戦後、珠算教室を経営のかたわら、この街の文化活動に微力を尽くす。

一時、小・中学校教員の経歴もあるが  
現在は珠算学校経営に専念。

現住所 東京都福生市志茂一九〇番地